

# 一盛長者伝説 について



水戸市立渡里小学校

4年2組

安島蒼空

## 目 次

<u>1 研究したわけ</u>	<u>3</u>
<u>2 研究のすすめ方</u>	<u>4</u>
<u>3 研究したこと</u>	<u>5</u>
1 一盛長者伝説とは？	5
2 いつの時代の伝説なのか？	6
3 後三年の役とは？	6
4 一盛長者とは？	7
5 源義家とは？	8
6 水戸市とその周辺の源義家に関する情報と一盛長者伝説の前後関係	9
<u>4 研究してわかったこと</u>	<u>10</u>

## 1.研究したわけ

ぼくは夏休みさいしょの土日に祖父の家にとまりに行きました。去年も祖父に夏休みの宿題について相談したところ、花火大会の様子を、貼り絵で作る方法を教えてもらい、作った作品で賞をもらえたからです。

そして今年、祖父は夏休みのしおりを見て「自由研究がいいんじゃない？」と言ったので、ぼくは「何を研究するの？」と聞くと「お前の学校の近くに【一盛長者伝説地】って、あるの知ってる？」と聞かれたので、ぼくは「知らないよ」と言いました。

そして祖父は【一盛長者伝説地】について、ぼくに説明した後に「今度、一緒に見に行くか？」と聞かれましたので、ぼくは祖父の話を聞き、こんな近所でそんなすごい事が有ったのかと、すごく興味がわいたので、「うん、連れて行って」とお願いしました。

およそ1000年も前に起こったとされるお話。そのお話を古い書物や言い伝えによつて、現在も語りつがれた伝説のお話。もしかしたらそこにはお城が有ったかも知れない。ぼくはもっといろいろと知りたくなり、研究してみる事にしました。



## 2.研究のすすめ方

(1)一盛長者伝説地の場所が、学校や、ぼくのいえの場所からどのくらい近い場所にあつたのかを、グーグルマップや、<sup>ヤフー</sup>yahooのマップで調べてみた。

(2)インターネットを使って【一盛長者伝説】に関する情報を、いろいろと集めて、どの正しそうな情報がどれか祖父に聞きながら、研究のもとになる資料をそろえる。

(3)この伝説や、その前後の歴史に関係してくる人を調べてみる。

(4)現地に行って見学したり、写真を撮ったりする。

(5)この伝説について調べた事を、レポートにまとめる。



### 3.研究したこと

#### (1) 一盛長者伝説とは？



この長者山は、源 義家によって滅ぼされたという一盛長者の伝説地である。

後三年の役のとき、十万の兵を率いて奥州に向かった義家は、長者の家に泊まって

豪勢なもてなしを受けた。

奥州平定後、再びここに泊まり、前に劣らぬ接待を受けた義家は、このような富豪は

後日の災いになると考へ、急に長者を襲って滅ぼしてしまったという。

## (2) いつの時代の伝説なのか？

平安時代終わり頃。平安時代とは西暦794年から1185年までの391年間にかけて平安京において主に政治が行われていた時代です。

後三年の役という事なので、永保3年(1083年)から寛治元年11月14日(1087年12月1日)までの間にあった戦いで、その帰り道の出来事ですから、1087年の12月の中頃から終わり頃だと思います。今は2020年なので934年前の伝説です。

## (3) 後三年の役とは？

平安時代の頃、東北地方には出羽国(現在の山形県と秋田県)に清原氏、陸奥国(現在の福島県、宮城県、岩手県、青森県、秋田県の一部)に、安倍氏という強大な豪族がいて、お互に勢力争いをしていましたが、前九年の役で安倍氏が滅亡し、東北地方全体を、清原氏がおさ治めていました。

後三年の役は、前九年の役の後、奥羽(現在の東北6県の事)を自分の物にしていた清原氏が内部分裂して戦い、源義家が陸奥守に任命されて介入、清原氏はほぼ消滅し、唯一生き残った清原清衡が、実父である藤原経清の姓、藤原に戻し、奥州藤原氏が登場するきっかけとなつた戦いです。



出羽国



陸奥国

## 一盛長者とは？

一盛長者の名前(本名)などの記録は残されていませんでしたので、【長者】という言葉を「デジタル大辞泉」で調べてみました。

### ちょう-じや〔チヤウ-〕【長者】

1 《「ちょうしや」とも》年上の人。また、目上の人。ねんちょうしや 年長者。

2 《「ちょうしや」とも》とく徳のすぐれている人。また、おだ 穏やかな人。

3 金持ち。ふこう 富豪。おくまんちょうじや 「億万長者」

4 一門一族の統率者。いちもんいちぞく 「氏の長者」 とうそつしゃ うじ などと書いてありました。

【一盛】という言葉については、「市守」や「駅守」「一守」「一守」などの言葉から変わったらしいなど、いろいろな説があるみたいです。

いろいろな資料から考えてみると、一盛長者は、市場(市)の様なものを仕切っていた豪族という説か、長者山のすぐ下に30年位前まで渡し船が有った事から、船着き場(駅)を仕切っていた豪族、という二つの説のどちらかだと思いました。

一盛長者が住んでいたとされる館(お城?)の跡がある水戸市渡里町の現地に行つてみましたが、建物などは焼かれてしまったので何も残っていませんが、土墨や空堀の一部が残っているようです。

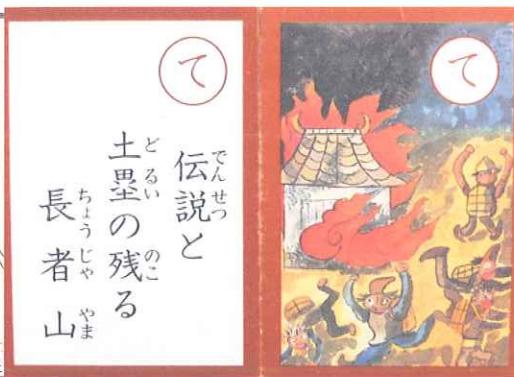
石碑には残されていませんでしたが、源義家におそわれた一盛長者は抜け穴に逃げ延びたのですが、追い詰められてしまい家宝である黄金の鶏を抱いたまま、那珂川に身を投げたと伝えられています。

あと、一盛長者が源 義 家に、馬のエサ用に煮豆を納めました。それが醸酵して出来たのが納豆で、現在の納豆の語源になっているそうです。

学校に置いてあるかるたには一盛長者伝説のかるたもあったので驚きました。



長者山城概念図



学校にあったかるた

#### (4) 源義家(みなもとのよしいえ)とは?

源義家は通称八幡太郎義家の名前で知られている、平安時代後期の武将。父親は伊予守の源 頼 義で、後に鎌倉幕府を開いた源 頼 朝、室町幕府を開いた足利尊氏などの祖先に当たる人物です。

長暦3年(1039年)河内国石川郡壺井(現在の大坂府羽曳野市壺井)に生まれ、

嘉承元年7月4日(1106年8月4日)68歳で死去とする。

先祖には、清和天皇—陽成天皇—元平親王—経基王(源 経 基)清和源氏—

多田満仲(源 満 仲)—源 頼 信—源 頼 義—八幡太郎源義家 という家系図です。

後三年の役の際、朝廷は、「この戦いは源義家の私戦である」と判断され、普通であ

れば恩賞というご褒美が貰えるのですが、義家には恩賞が無いどころか、戦いにかかつ

た費用も支払われませんでした。さらに、正月には陸奥守を罷免されてしまいました。

三年間もの間、十万もの兵を使っていた費用は莫大な金額で、義家は河内石川荘の

自分の私財を投じて部下の武将に褒美を与えました。

こうした行いが、武家の棟梁としての信望を高めたといわれ、後に鎌倉幕府を開いた

源頼朝や室町幕府を開いた足利尊氏ら子孫への礎となっている。

## (5) 水戸市とその周辺の源義家に関する情報と一盛長者伝説の前後関係

①小美玉市の手堤の地名は、八幡太郎義家が5万の兵隊を率いて奥州へ向かう時、

大雨で池の水があふれて通れないで、手で土をもって土手を築いたところから名付けられたと言われています。

②小美玉市には五万人窪という地名もあり、軍勢五万人がここで雨宿りをしたそうです。

③水戸市元石川町にある手子后神社は、源義家がここで戦勝を祈願したとき、兵たち

が弓の先で境内の沢を突くと水が湧き出たそうです。そこを泉沢と呼ぶようになり、神社

の御手洗としたそうです。近くの御旗というところは義家が旗を立てたところだそうです。

④水戸市藤井町にある藤内神社で義家が戦勝を祈ったそうです。その時境内藤の枝を

とて鞭を作り軍団を指揮したそうです。それで「藤井」という地名が生まれたそうです。

⑤水戸市の十万原近隣公園がある場所は、義家が十万の兵を集結させた所で、後三

年の役が無事終わり、帰る途中にも十万原に立ち寄って休息し、近くの藤内神社に御礼参りして、都に戻ったそうです。

⑥水戸市上河内町 547 番地には素鷲神社があります。一盛長者を滅ぼした義家は、

那珂川対岸に引き返し、そこで兜を松に掛けて休んだと伝えられているそうです。その松は枯れて新しい松になっていますが明治30年に「兜松」の記念碑が建てられました。

このような言い伝えは、まだまだたくさんありましたが、とりあえず六つあげてみました。

### 3.研究してわかったこと

この伝説を最初に聞いた時、滅ぼされてしまった一盛長者の事がすごくかわいそうで、源義家はなんて酷い事をしたのだろうと思いましたが、いろいろと調べて行くうちに、どうしてこんな事が起こってしまったのか分かったような気がしました。帰り道、一盛長者の館に立ち寄った時の義家は、3年間も寒い東北の地で頑張ってきたのに、ご褒美も貰えず、陸奥守もクビになり、戦に掛かった莫大な費用をどうやって払おうか考えていた時だと思います。そんな時に豪勢なもてなしを受けて、義家は感謝の気持ちよりも、自分の立場と真逆で裕福な一盛長者の事が、恨めしく思ったことでしょう。

今回、祖父といろいろと調べたり、パソコンの使い方を教わったり、とても楽しい自由研究が出来ました。ぼくのルーツが藤原鎌足につながっている事も分かりびっくり。これについてはまた自由研究のきかいがありましたら、レポートしたいと思います。